

横浜市立六浦中学校 学校評価報告書

| 重点取組分野 | 令和 4 年度 | | 総括 |
|----------------|--|--|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 自尊感情を育てる授業づくり | ①指導・評価方法の研究を通して、主体的に学習に取り組む生徒を育てる ・指導・評価方法に関する実践研修（学習指導要領の研修） ・生徒による授業評価・研究授業 ②協働的な体験を通して、問題解決能力と実践力を育てる ・学年・学級活動・グループ活動 | 主体的に学習に取り組む態度の育成を目指し、年間を通じ指導・評価方法を研究し、特に校内授業研究では生徒の見取りについて研究を深めた。また、授業で協働的な学びを積極的に取り入れた。今後も研究を継続するとともに、ICTを取り入れた授業づくりの充実を目指す。 | B |
| 人権教育 | ①生徒一人ひとりの人権意識と自尊感情を育てる ・挨拶運動・人権週間の取組・金沢ブロック人権研修・校内人権研修 ②生徒理解を深め、課題の予防・早期発見・早期解決に組織的に取り組む ・生活アンケート・YPアセスメント・学年間での情報交換・SC、SSWなど専門機関との連携 ③誰もが安心して豊かに生活できる環境を作る ・特別支援教育研修・個別の支援計画・指導計画の作成、実践、振り返り・特別支援教室の運営 | 人権意識と自尊感情の育成に務め、生徒主体の人権週間の取組、保護者や小学校と連携した挨拶運動、ブロック人権研修等を実施した。生徒理解の手立てとして生活アンケート、YPアセスメント等を年間を通じて実施した。また、SC、SSWとも連携し、特別支援教育を推進した。 | B |
| 健康教育 | ①自他の命を大切にできる健やかな心と体を育てる ②食への関心を育て、食事の重要性を理解し、健康な食生活が実現できるようにする ・保健体育・体育祭・避難訓練・中学校給食の取組 ・保健室だよりを活用した保健指導 | 保健体育、家庭科を中心に健康に関する意識向上を図り、体育祭の取組を通じて体力向上、運動の楽しさを身につけさせた。また、様々な想定避難訓練を計画的に実施した。学校便り、保健便りを通じて食文化の理解や健康につながる情報を発信した。 | B |
| 自分づくり教育 | ①特色ある教育課程を通して、生徒自身が、自分も地域の一員であるという自覚がもてるようにする ②体験を通して、生徒が主体的に進路を考え、選択決定する力を育てる ・キャリア教育推進 （1年マイスター2年職場体験3年進路学習） ・地域行事 | コロナ禍でも地域との交流を維持するために、区役所作成のワークシートを活用しながら地区別会議を実施した。職業講話、職場体験、高校出前説明会を実施し、キャリア教育を充実させた。特に、職場体験では貴重な体験と主体的な事前事後学習が実施できた。 | B |
| いじめへの対応 | ①いじめを絶対許さない意識を育て、いじめの起きにくい学校風土をつくる ②いじめ防止対策委員会を月1回開催し、問題の未然防止、早期発見、早期解決、再発防止に努める ・いじめ防止対策委員会・生活アンケート ・YPアセスメント・学年間での情報交換 ・SC、SSWなど専門機関との連携 | 年5回のアンケート（YPを含む）を実施し、教育相談に繋げるとともに、日頃よりアンテナを高く情報をキャッチし、教職員間での共有、相談、素早い組織的対応を行った。今後も、広く拾うという姿勢で、積極的認知を続けていく。 | A |
| 人材育成・組織運営(働き方) | ①全職員が安心して豊かに働ける職場にする ②職員が明確な目標や課題をもって職務に取り組む、キャリアステージに応じた資質能力を身に付ける ・メンター研 ・主幹によるミドルリーダーの育成(研修運営) ・年休10日取得プロジェクト | 業務改善は進んでいるが、まだ課題が多い。各部署の仕事内容を再定義し、業務の偏りを少なくするなど取り組んでいく。また、定時退勤日は形骸化してきている。業務改善、組織改革を含め根本的な改革を進めていく。メンター研を年3回実施した。 | B |
| 地域学校協働活動 | ①保護者・地域と互いに情報を共有し、連携・協働して共に子どもを育てていく ・中学生川柳・学校だより・学校HP等による情報発信 ・学業地連・地区懇話会・学校運営協議会 ・むつうら教育支援本部との連携・地区別班会議 | 生徒が地域に関する川柳を考え、地域と連携した活動を行った。また、学校運営協議会、むつうら教育支援本部、地区懇話会等で学校の課題や困り感を発信し、地域の方や保護者と連携しながら学校運営を考えることができた。 | B |
| 小中連携 | ①小中9年間で人権尊重の精神を基盤とする教育を通して、育成したい資質・能力を育てる ②小中での情報交換を密に行い、学習指導・生徒指導に活かしていく ・金沢ブロック人権研修・小中ブロック授業参観 ・小中合同地域理解研修・小中児童生徒交流日 ・児童支援専任・生徒指導専任間の情報交換 | ブロックとして合同研修を開催し連携を深めるとともに、児童生徒の学習、実態を共有したことは有意義であった。児童生徒交流日では、近隣小学校6年生に中学校の生活を見学してもらった。今後、あいさつ運動やこども会議以外の児童生徒の交流の機会を増やしていく。 | B |
| ブロック内評価後の気付き | ○今年度はブロック内で人権をテーマにした合同研修を行うことができた。「相手意識」を持った行動の大切さを再確認することができた。 ○授業研究会では、『気になる子「Aさん」についてYPアセスメントを用いた授業実践の取組』を行い、授業づくりや教科指導法について研修を深めることができた。また、小中間で生徒の実態を共有できる貴重な機会となった。 ○いくつかの行事は中止になってしまったものの、児童生徒交流日の授業見学や小学校でのあいさつ運動は行うことができた。今後も交流を深めていきたい。 | | |
| 学校関係者評価 | ○いじめ防止・早期対応に関する取組を積極的に行っていることは評価できる。これからはいじめ防止の取組を充実させてほしい。○生徒・教職員がしっかりと挨拶ができていく。○コロナ禍で制限がある中、学校の多くの情報を地域に発信し地域連携に取り組んでいる。また、生徒の地域川柳を町内や福祉施設等に掲示できよい取組である。○防災では、関東大震災100年を意識していたことや、区役所・地域と共に実施でき、充実していた。 | | |
| 中期取組目標振り返り | 安全・健康に過ごすために全校でできる限りを尽くした。YPアセスメントを絡めた授業研究は、一人一人の安心を高め、学習への主体性を伸ばし、小学校との連携強化に手ごたえを感じた。いじめを積極的に認知する意識が高まり早期発見・解決につながった。地域との関わり方を多様化したことで子どもは大切にされている感覚を得て自分づくりを進め成長した。今後は地域の課題と一緒に解決する取組に挑戦させたい。職員数減に向け業務を整理して組織を改めた。それが働きやすく人材が育つ職場につながることを期待する。 | | |